

物性委員会幹事会議事録

日時 2012年9月8日(土) 13:30 - 16:00
場所 東工大 田町キャンパス内 キャンパス・イノベーションセンター8F 806室
出席者 上田和夫(物性研), 小形正男(東大), 川上則雄(京大), 倉本義夫(東北大),
佐藤英行(首都大), 田島節子(阪大), 早川尚男(京大基研), 藤森淳(東大), 村上洋一
(KEK), 村田恵三(大阪市大)
事務局 西田信彦(東工大), 西森秀稔(東工大), 古賀昌久(東工大), 大熊哲(東工大)
計 14名

配布資料

- 1) 東大物性研からの物性研人事選考協議会委員の推薦依頼状(規則, 現在の物性研協議会委員, 物性研人事選考協議会委員, 物性研共同利用施設専門委員会委員)
- 2) 各種推薦委員選挙結果履歴(物性委員会幹事, 物性研人事選考協議会委員, 物性研協議会委員, 物性研共同利用施設専門委員会委員, 京大基研運営委員, 京大基研共同利用委員)
- 3) 東大物性研共同利用施設専門委員会委員, 京大基礎物理学研究所運営協議会委員, 京大基礎物理学研究所共同利用運営委員会委員, および物性委員会幹事の選挙結果

議題

1. 「東大物性研人事選考協議会委員」(2名) 推薦のための投票
2. その他

報告

1. 事務局より配布資料 3)に基づき, 「東大物性研共同利用施設専門委員会委員(任期 H25.4.1-H27.3.31), 京大基礎物理学研究所運営協議会委員(任期 H25.8.1-H27.3.31), 京大基礎物理学研究所共同利用運営委員会委員(任期 H25.1.1-H26.12.31), および物性委員会幹事(任期 H24.10.1-H27.9.30)」の選挙結果(平成24年9月5日開票)の報告があった。基研の委員に関して, 研究分野が少し偏重しているのではとの指摘があった。

2. 3月に APCTP (Asia Pacific Center for Theoretical Physics) 日本委員会より物性委員会に, 「物性グループから2名の委員を選出して欲しい」との依頼を受けた。このため幹事に意見を求め, 物性グループ事務局で相談した結果, 古崎昭氏(理研)と三宅和正氏(阪大基礎工)の2名を物性委員会委員長名で選出した。APCPT 日本委員会会則には, 選挙で選ぶと書かれているが, 物性委員会は幹事に候補者の推薦を求めたのち, 事務局で2名選んだ。APCTP 日本委員会に, 選挙で選ばない旨を伝えた。

3. 3月に永宮正治氏(J-PARC)より物性委員会に, APPC12 のプログラム委員の推薦依

頼があった。このため幹事に意見を求め、物性グループ事務局で相談した結果、以下の7名を推薦した。

大貫惇睦(阪大名誉教授), 田島節子(阪大), 村上洋一(KEK), 鹿野田一司(東大), 大谷義近(東大物性研), 斉藤晋(東工大), 小形正男(東大)

議事

1. 東大物性研人事選考協議会委員の投票に先立ち、以下の事項を確認。
 - 1) 斎藤晋(東工大), 村上洋一(KEK)委員 (任期 H23.4.1~H25.3.31) の後任委員の選出で、任期は H25.4.1~H27.3.31 である。
 - 2) 物性物理学分野から2名を推薦する。実験と理論から各1名選出することとし、研究分野のバランスも配慮する。
 - 3) 年齢は委員の任期中に65歳(東大の定年)を越えないこと。
 - 4) 配布資料のリストに記載の各種委員との重任を避ける。
 - 5) 2年を超えて、引き続き連続して人事選考協議会委員に就任することは避ける。
 - 6) 同一大学同一部局に所属する委員が含まれないように選出する。
 - 7) まず候補者のノミネーションを行った後、第1回目の投票を行う。理論および実験からそれぞれ上位3名を選び、第2回目投票を実施する。理論、実験で最高得票者各1名を当選とするが、前項6)の同一所属に抵触した場合には、票数の少ない方はずす。

2. ノミネーションおよび投票の実施
 - 1) 候補者のノミネーション(欠席の幹事から寄せられたノミネーションも含む)投票を行った。このうち前項4)の他の委員との重任、および6)の同一所属からの選出制限に抵触する者を除いた後、さらに分野のバランスを考慮して7名の追加ノミネーションを行い、23名を第1回投票の候補者とした。
 - 2) 理論1名、実験1名を念頭に、2名連記による投票を実施(投票者12名)。
 - 3) 第1回投票の結果、理論と実験のそれぞれ上位3名を候補者として残す。
 - 4) 第2回投票(同じく2名連記)の結果、理論では西森秀稔氏(東工大理)が8票[次点:押山淳氏(東大工)3票]、実験では樽茶清悟氏(東大工)が5票[次点:谷垣勝己氏(東北大理)4票]を獲得し当選。西森氏は席上で受諾を表明、樽茶氏には後日確認をとる。

4. 物性研の将来計画について意見交換

物性委員長から、「家所長から6月の物性研懇談会での議論を受け、物性委員会と共催で物性研将来計画についてのシンポジウム開催、また、物性研内で将来計画を検討するためのスタンディングコミティを作ることを考えているとの連絡があった」と報告があった。物性委員長が、スタンディングコミティには外部の人がいた方がいいとの意見を述べたとの報告があった。物性委員会としてこの問題にどのように関わって行くかについて議論した。

スタンディングコミッティのメンバーは物性研の所員に限られているので、議論内容は外部に開かれていることが望ましい。外部メンバーがコミッティに入るとよいとの意見もあったが、議論の後、スタンディングコミッティと外部とのコミュニケーションが密に行われるように、定期的な報告を受けたり、合同の委員会を開くのがよい、そして、その役割は物性委員会幹事会が担うのがよいということになった。

5. JPSJ 問題について意見交換

JPSJ の海外販売委託問題について、最新の情報に基づき意見交換を行った。これまで提案されていた IOP だけではなく、米国の別の会社も委託先として有力視されているとの報告があり、それぞれのメリット・デメリットについて自由討論を行った。JJAP との連携を重視する意見も出された。

6. 次回物理学会（9月18日、横浜国大）の拡大物性委員会での議題

各研究所における物性研究の現状と将来について、十倉好紀氏（東大、理研）と早川尚男氏（京大基研）に講演をお願いする。

7. KEK のロードマップ（中間まとめ）に関する現状報告（村上）

以上。